

佐渡島の野生植物の重要性と保護

石 沢 進

最近佐渡島に渡る機会が多くなったが、野生植物に関して気掛かりなことがあるので、その一端をまとめてみた。

島という隔離した環境に生えている植物は、植物地理学的な観点から、古来より関心が持たれている。島に分布している野生植物は、長い歴史の生き証人であり、また、島を特徴づける存在であって極めて重要な位置を占めていると考える。

最近、その野生植物に人為的な作用が加わり、島古来の特色が喪失する可能性を感じており、島民の方々の理解を

得たいと思っている。

下の写真4枚を見て、佐渡でも極めて大切な砂丘群落に、人為的な作用を及ぼしていることに愕然としている方々も多いと思う。これらの写真にみられる行為はほとんどもない自然破壊を行っていると感じてほしい。

貴重な砂丘植生の大切な地域に歩道の設置が自然に大きな打撃を与えていることであり、自然植生を大切にすることに反している。また、自然群生地を保護しようと看板を立てて、飛砂防止という名目で植栽を行っていることに極



写真1 「歩道の設置」貴重な砂丘植生の中に歩道の設置



写真3 「海岸保全区域占用同意標」の標示板
(目的：佐渡市立佐渡植物園にかかる自然保護標柱を設置するため)



写真2 「素浜自然植物園－素浜の自然群生地を保護しよう－」の立て看板



写真4 「飛砂防止緑化試験地」として人為的に植栽

めて矛盾を感じる。

貴重な砂丘植生は、季節風の厳しい影響のもとで存在し、そのために特殊な群落が発達している。そこに飛砂防止することは、その貴重な砂丘植生を破壊に直結する。自然植生を破壊して、加えて飛砂防止と称して植栽するという二重の破壊行為である。自然群生地との保護と極めて矛盾していることを理解してほしい。

さらに、この植物園と称している周辺には、スイセン、アイリスなど園芸種が自然植生の中に大量に植栽され、三重の破壊行為を行っていることに驚く。

佐渡島の砂丘に長年存在してきた「貴重な砂丘植生」とんでもない人為的な行為を行っていることを多くの方々に理解していただきたい。これ以上人の手を加えることなく、できれば自然植生の中に植栽した園芸種は撤去してほしいものである。

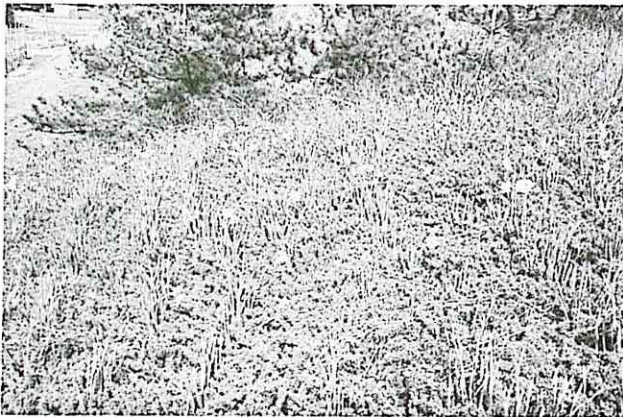


写真5 ハイネズの中に植栽されたスイセン



写真6 道路脇にアイリスも植栽

自生の植物群落内に外来種の移植

佐渡島では、上記素浜以外にも自生の植物群落内に園芸種を導入して、花一杯にして島を美しくしようという取り組みについては、再考をお願いしたい。花を植えて美しくするのは、各家庭の庭に止めておき、田圃周辺や里山などにアジサイ、ハナショウブなどの植生することを再考してほしい。田圃周辺や里山などの植物群落は、そのものが佐渡を特徴づける存在、言い換えれば佐渡島だけに見られる生態系であり、極めて意義深いものである。そして、田圃周辺や里山などの植物群落の中に四季折々に咲く花々に注目して、その美しさに感動し、佐渡の自然環境に生き続けている姿を理解してほしい。

自生の植物群落の利用と破壊

佐渡のトビシマカンゾウ、イワユリなど自生の植物を、島の観光の売り物としていることは、佐渡の素晴らしい自然を紹介につながり、理解できる。しかし、それらの植物を人工的に沿道に植栽したり、増殖して生育地の範囲を拡大することには疑問がある。自生地の自然に人為を加えることは最小限に止めて、「佐渡の自然」の見せ場にしてほしい。佐渡の自然のありのままの姿を解説・紹介し、特定の植物だけを観光の目玉としないように配慮することが必要であろう。

現場を確認していないが、佐渡のドンデンのハクサンシャクナゲを観光のために、移植あるいは増殖を行っているとの情報もあるが、ハクサンシャクナゲだけを目玉にして紹介することは、ドンデンの自然の価値を損なう行為であるように思われる。ハクサンシャクナゲだけでなく、それと共存しているさまざまな植物の存在、植物群落としての存在が貴重である。

道路建設に伴う外来種の植栽

佐渡では、島内の一周道路の建設が進み、便利になりつつある。道路が整備されるとそれに伴って外来種が植栽され、より美しい環境造りがなされているようである。しかし、植栽した種類の中には、ワタゲヤグルマのような将来その付近一帯に繁茂する危険をはらんだ種類も含まれているようである。植栽に当たっては導入した種類が将来の佐渡の植生に影響を及ぼすことのないと保証できるものを選択してほしい。

要望事項

上記の繰り返しになるが、佐渡の素晴らしい自然、佐渡の植物の紹介には、特定の種類だけを対象にするのではなく、「佐渡古来の植物群落の保護」を根底にすえ、植物群落に人為を加えることは最小限に止めることを今後の基本方針にするように要望したい。